

2024年3月25日

株式会社第一興商  
NTTコミュニケーションズ株式会社

## 第一興商が「docomo MEC<sup>®</sup> compute E」を 通信カラオケ DAM のコンテンツ配信基盤として導入

株式会社第一興商（以下 第一興商）と NTT コミュニケーションズ株式会社（以下 NTT Com）は、通信カラオケ DAM のコンテンツ配信基盤に、業務用カラオケとして初めて、「docomo MEC<sup>®</sup> compute E」（以下 「docomo MEC<sup>®</sup>」）<sup>\*</sup>を導入し、2024年11月より運用を開始します。

これにより、楽曲や映像の配信の効率化をめざすとともに、今後のカラオケ機器の5G化に向けた協業を進め、どこでもハイクオリティな音および映像体験ができるカラオケサービスの提供に取り組めます。

2024年4月に登場から30年を迎える DAM シリーズは、先進的な技術の導入により、さらなるサービス強化拡充と、お客さまの利便性向上を図り、人々に喜びと楽しさを提供し続けてまいります。

### 1. 背景

カラオケサービス市場においては、音楽業界のヒット曲の多種多様さにより、より多彩な楽曲・映像が利用者から求められており、配信楽曲および映像数は毎年増加しています。これは、カラオケが幅広い世代の娯楽として親しまれているのに加え、昨今ではその健康効果に注目が集まり、介護施設や自治体関連施設などへの導入が進んでいるためと考えられます。このような中、カラオケ産業では「好きなアーティストの楽曲をもっと楽しみたい」「映像を含めた歌唱体験を向上させるサービスを利用したい」といった多様な顧客ニーズへの対応が求められています。

### 2. 取り組み概要

第一興商は、通信カラオケ DAM が利用する配信基盤として、「docomo MEC<sup>®</sup>」を採用しました。これにより、セキュアかつ柔軟に大容量データの取り扱いが可能となり、楽曲・映像を閉域内の安全な環境で効率的に配信することができます。また、エッジサーバーとして活用することにより各種コンテンツの高速なダウンロードが可能となり、カラオケ利用者の体験の向上が期待できます。

### 3. 今後の展開について

今後両社は、「docomo MEC<sup>®</sup>」や5Gを活用し、通信カラオケ DAM の設置時の可搬性の向上や楽曲・映像配信の高速化により、新たな価値の創出を検討していきます。具体的には、過疎地域におけるカラオケサービスの提供を通じた地域コミュニティの創出、地域の健康課題解決に資するサービスの提供など、地方創生にも貢献していきます。

※ : 「docomo MEC Compute E」は、株式会社 NTT ドコモが提供元であり、NTT Com が代理人として  
契約締結権限を授与され、包括的な業務受託にもとづき販売します。

\* 「docomo MEC」は株式会社 NTT ドコモの登録商標です。